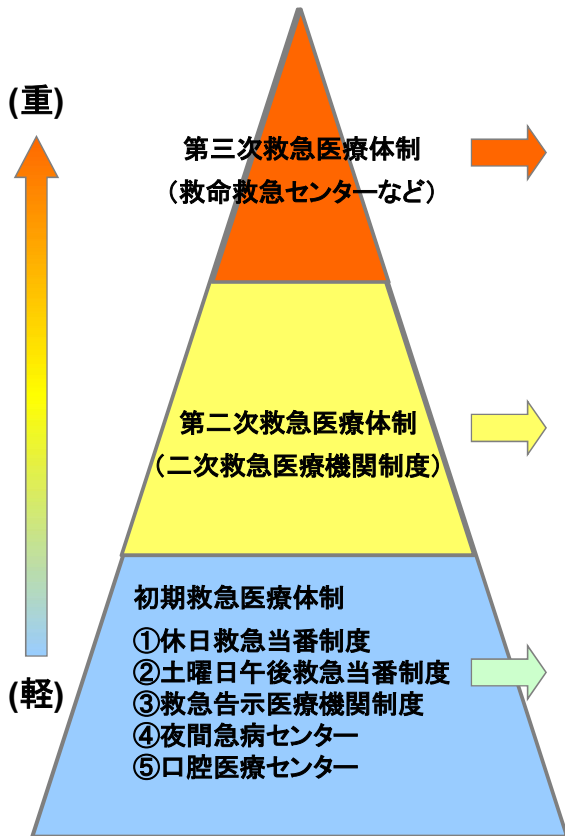


札幌市の医療提供体制

1 救急医療体制

札幌市の救急医療体制



○三次救急医療体制（救命救急センターなど：年間365日24時間対応）

札幌医科大学附属病院高度救命救急センター
市立札幌病院救命救急センター
国立病院機構北海道医療センター（併設：救命救急センター）
手稲溪仁会病院救命救急センター
北海道大学病院救急部

○二次救急医療体制（二次救急医療機関制度）

診療分野	参加病院数	1日当たり 当番病院数	診療時間
脳神経外科	14	4	（平日） 17時～翌日9時 （土曜日） 13時～翌日9時 （日曜日） 9時～翌日9時
循環器科・呼吸器科	23	1～2	
消化器科	27	1	
小児科	11	1	
外科	16	1	
泌尿器科	11	1	

○初期救急医療体制

	診療科目	参加施設	1日当たり 当番施設数	診療時間
休日救急当番制度	内、小、産婦 耳、眼、精	延べ559	14～20	9時～17時
土曜午後救急当番制度	内、小、産婦	延べ238	6	13時～17時
救急告示医療機関制度	外、整、脳、形	52	3～5	9時～翌9時
夜間急病センター	内、小 耳、眼	1	1	19時～翌7時 19時～23時
口腔医療センター	歯	1	1	19時～23時

※ 初期・二次救急については札幌市医師会の協力を得て構築

救急医療体制ごとの年間受入れ患者数

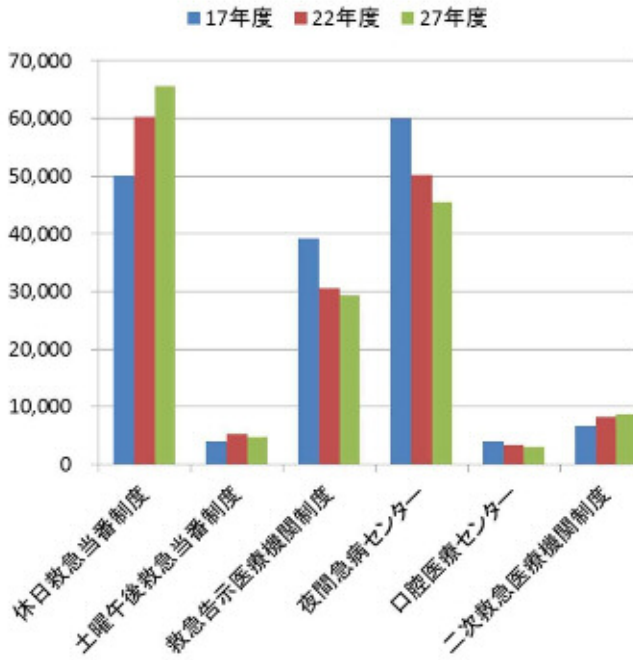
（平成27年4月～平成28年3月）

（人）

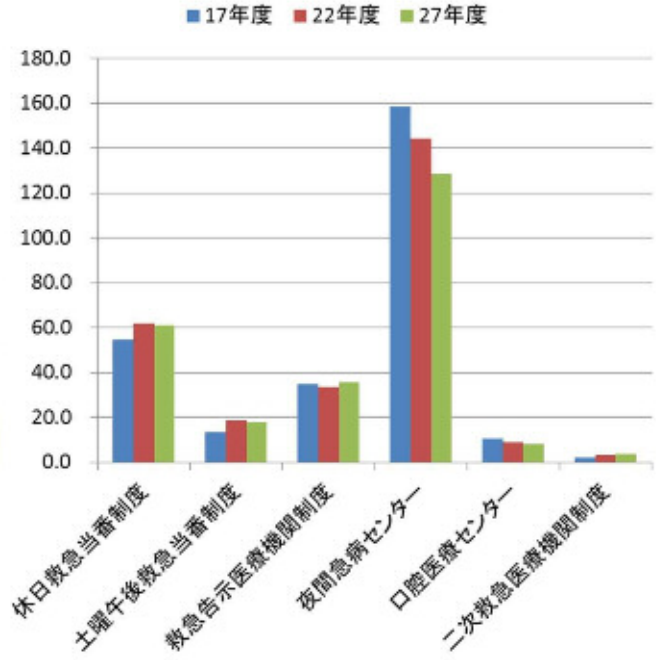
区分		患者総数	1か月平均
初期救急	休日救急当番制度	65,579	5,465
	土曜午後救急当番制度	4,811	401
	救急告示医療機関制度	29,315	2,443
	夜間急病センター	46,980	3,915
	口腔医療センター	2,944	245
二次救急医療機関制度		8,691	724
計		155,376	12,948

救急制度ごとの患者数

年間患者数



1施設・1日平均患者数



救急告示医療機関 参画施設数



※ 救急告示医療機関・・・けが(災害)の外科系の初期救急を担当

札幌市夜間急病センター



夜間急病センター

札幌市中央区大通西19丁目

電話:011-641-4316

※地下鉄東西線「西18丁目駅」



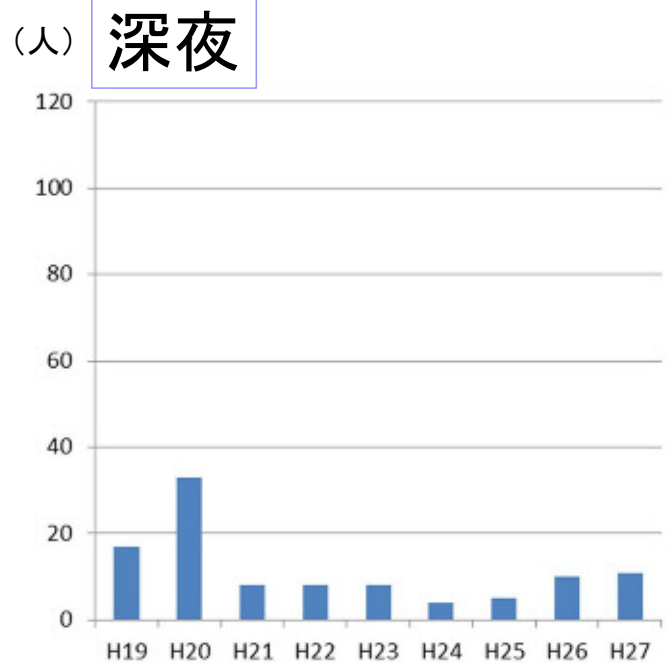
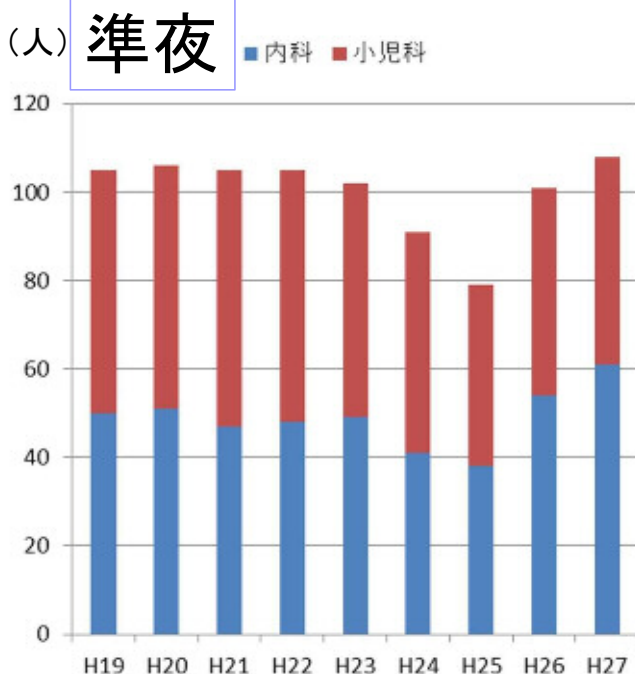
●内科／小児科
午後7時から翌日午前7時まで

●耳鼻咽喉科／眼科
午後7時から午後11時まで

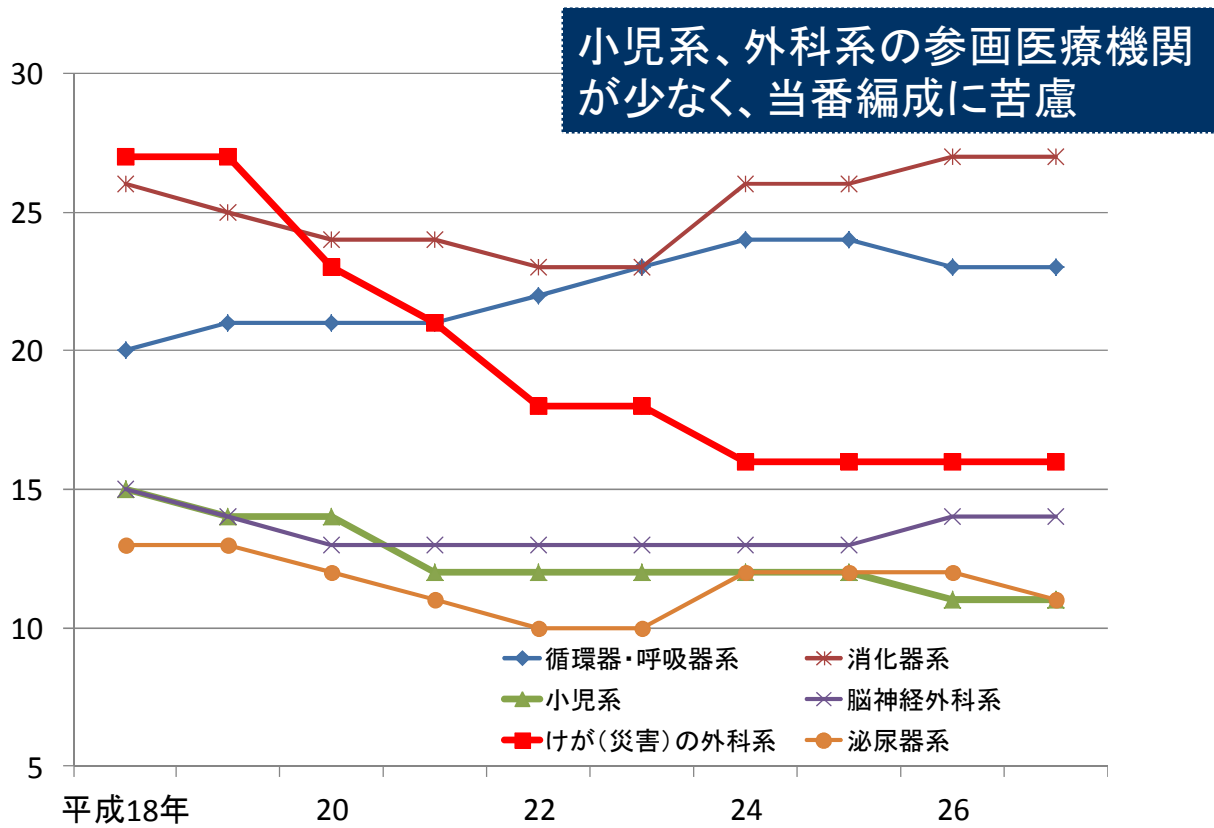
※年間全日対応

札幌市夜間急病センター 協力医

協力医の安定的確保が困難



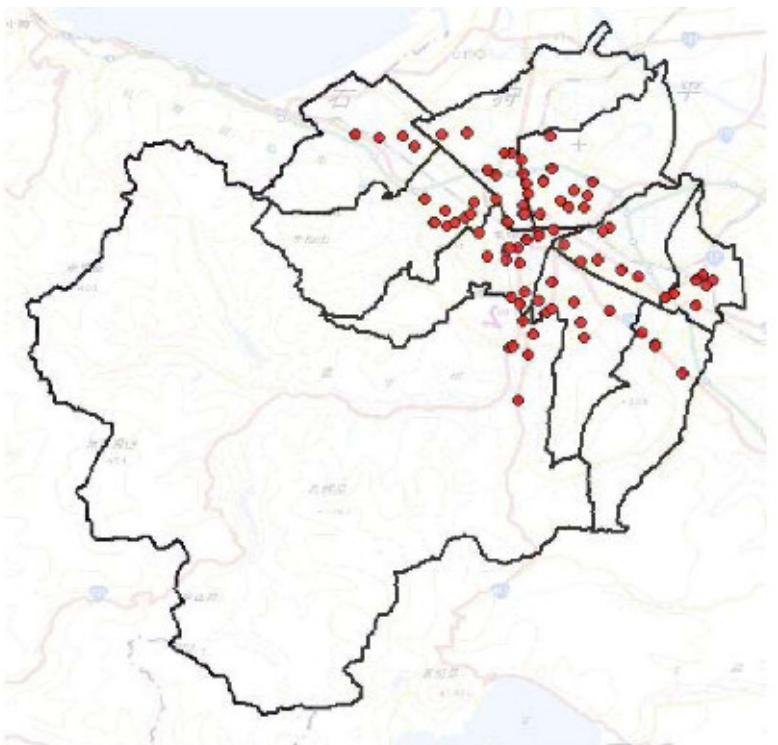
二次救急医療体制 当番参画施設数



二次救急医療体制 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	17	豊平区	7
北区	9	清田区	4
東区	15	南区	8
白石区	7	西区	10
厚別区	7	手稲区	4

2016年7月1日現在 計88施設



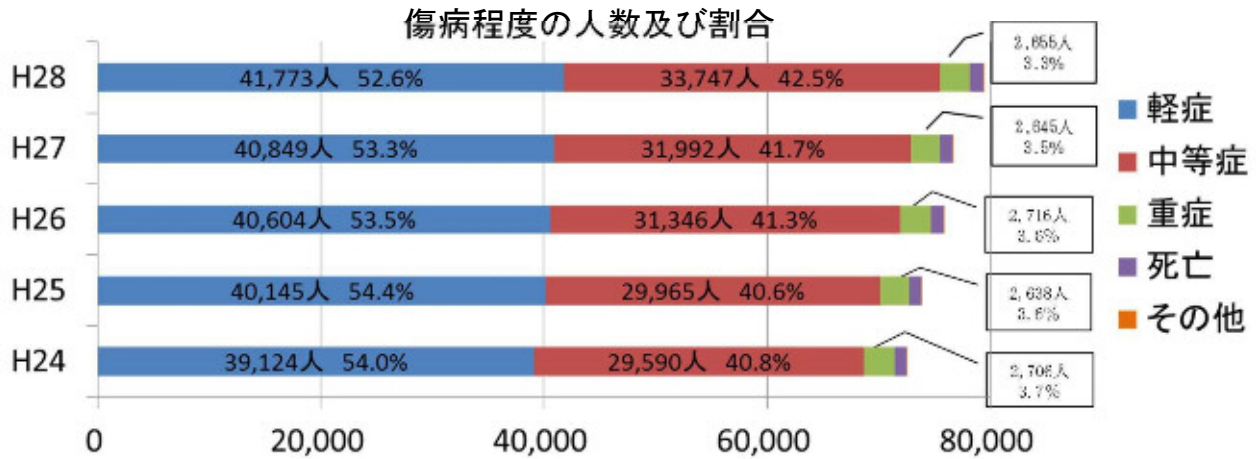
救急搬送の状況

救急搬送人員数及び各傷病程度の人数

単位：人

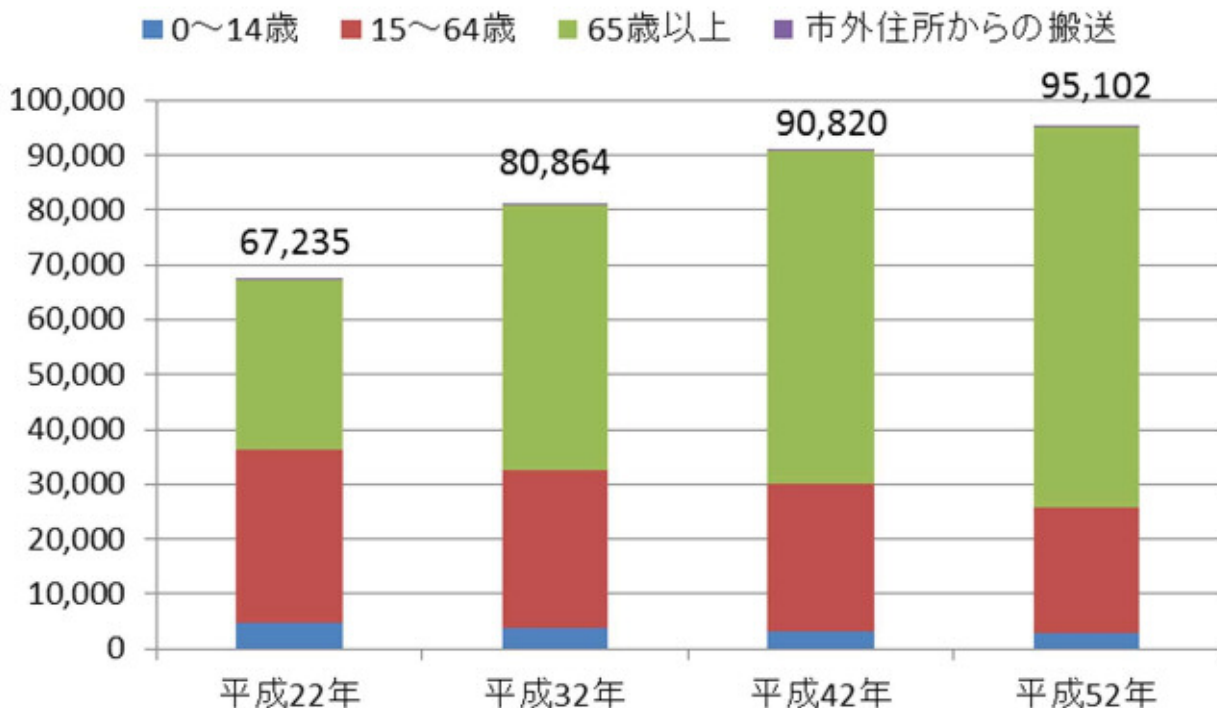
	搬送人数	死亡	重症	中等症	軽症	その他	搬送人数増加数 (前年との比較)	搬送人数増加率 (前年との比較)
H28	79,383	1,197	2,655	33,747	41,773	11	2,749	3.6%
H27	76,634	1,125	2,645	31,992	40,849	23	803	1.1%
H26	75,831	1,134	2,716	31,346	40,604	31	1,981	2.7%
H25	73,850	1,062	2,638	29,965	40,145	40	1,350	1.9%
H24	72,500	1,047	2,706	29,590	39,124	33	2,657	3.8%

※平成28年は速報値



救急搬送人員(推計)

高齢化に伴い増加



出典：救急需要増加に伴う救急隊の適正配置等に関する研究について
(救急隊の適正配置等に関する研究会(札幌市消防局))

救急安心センターさっぽろ（平成25年10月開設）

救急車？ それとも

病院？

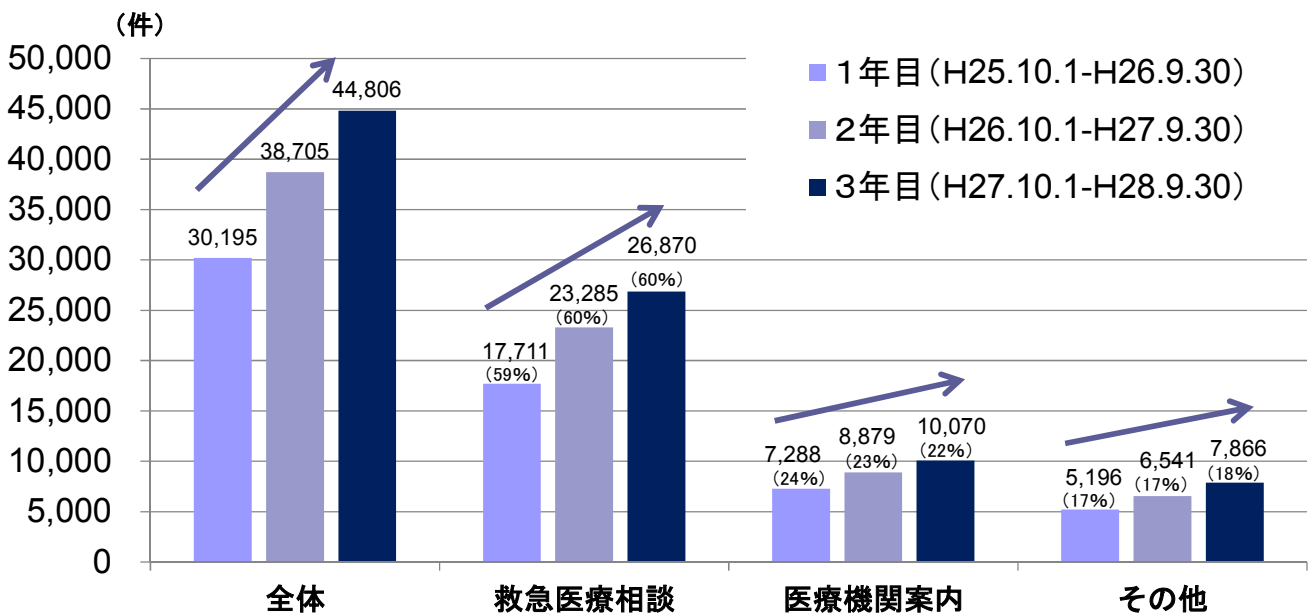
市民認知度の向上が課題
平成28年7月：認知度33%

急な病気やケガで迷ったら



※緊急性があり、救急車が必要な時は、直接119番へ電話してください。

救急安心センターさっぽろ相談受付状況

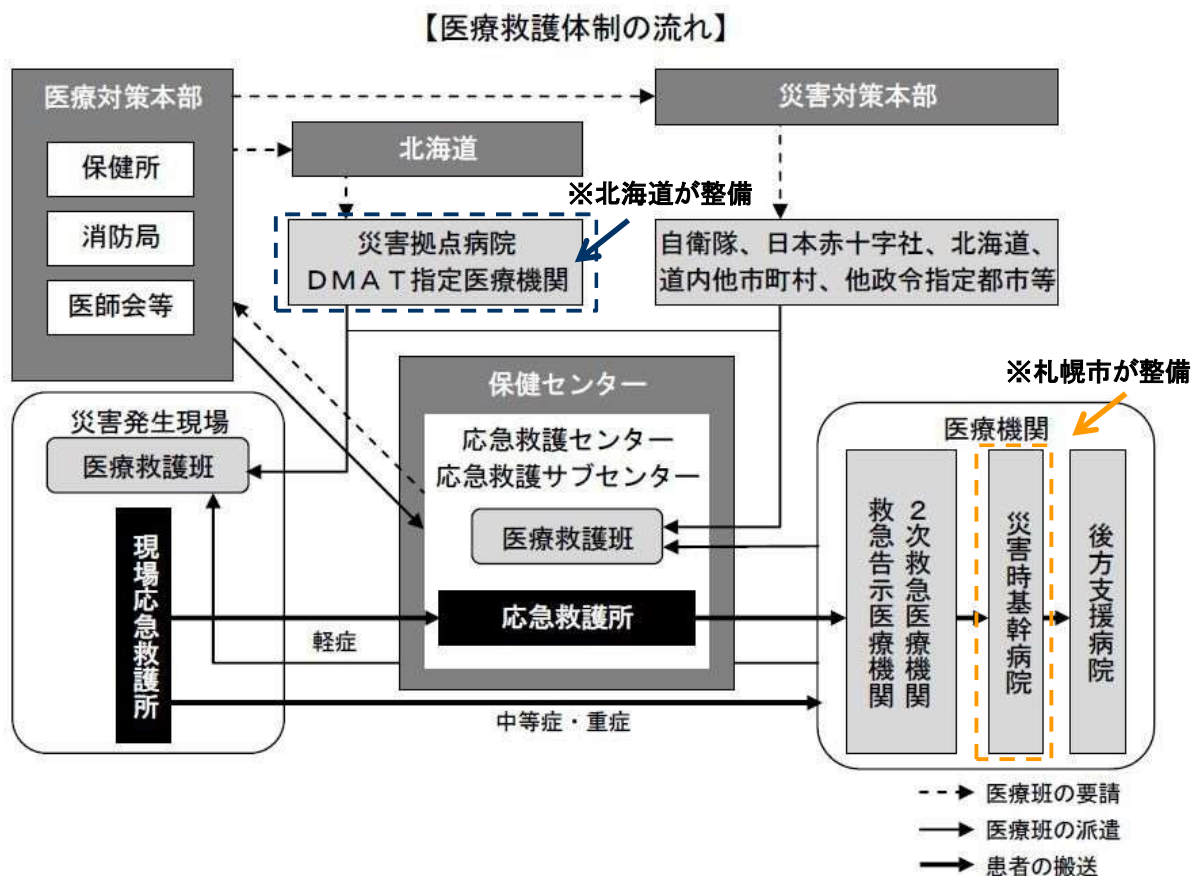


※かっこ内の数字は、全体に占める割合

- 1年目と比較し、3年目は約1.5倍(14,611件)の増加
- 1日当たりの相談件数は、1年目82.7件 2年目106.0件 3年目122.4件
- 救急医療相談、医療機関案内、その他の件数の全体に占める割合は、1年目～3年目でほぼ変化なし

2 災害医療体制

札幌市の災害医療体制



札幌市独自の災害医療体制整備

札幌市

○災害時基幹病院	・市内12施設
○災害時精神科医療基幹病院	・市内6病院
○医療救護班(応援協定)	・札幌市医師会 ・札幌歯科医師会 ・札幌薬剤師会
○医薬品・医療資機材(応援協定)	・北海道医薬品卸売業協会
○緊急連絡システム(患者受入の可否等 情報収集)	・札幌市医師会

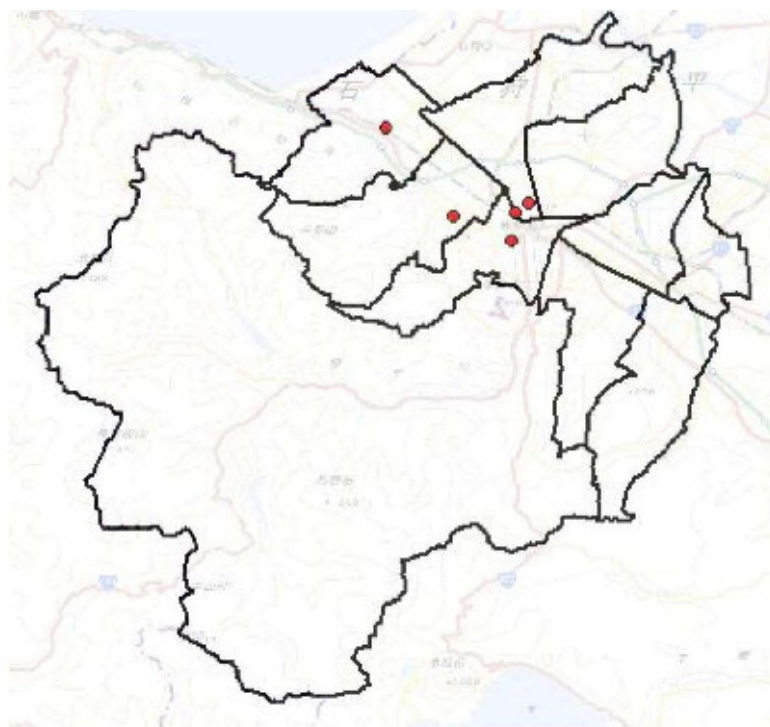
北海道

○災害拠点病院	・道内34施設(うち市内5施設)
○北海道DMAT指定医療機関	・道内34病院(うち市内5施設)

災害拠点病院・北海道DMAT指定医療機関 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	2	豊平区	0
北区	1	清田区	0
東区	0	南区	0
白石区	0	西区	1
厚別区	0	手稲区	1

2016年4月1日現在 計5施設

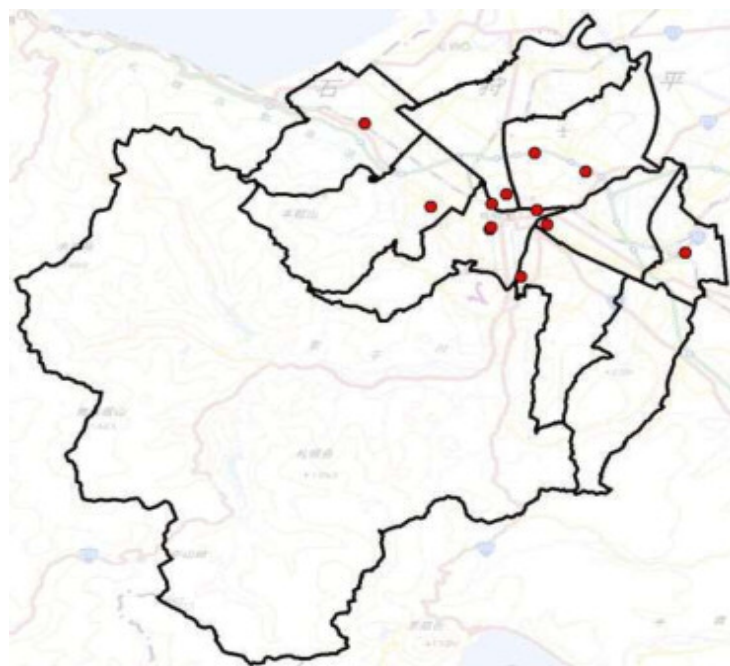


札幌市災害時基幹病院 地域分布

清田区・南区指定なし

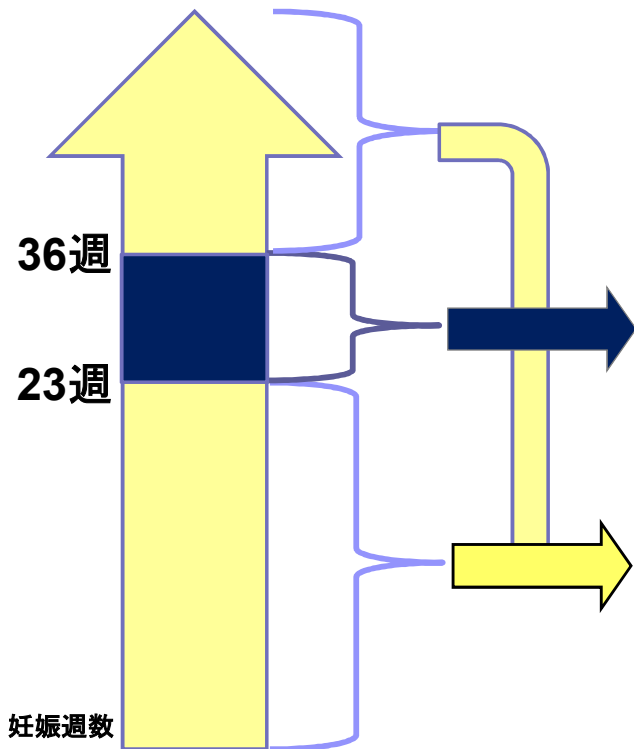
区	施設数	区	施設数
中央区	4	豊平区	1
北区	1	清田区	0
東区	2	南区	0
白石区	1	西区	1
厚別区	1	手稲区	1

2017年4月1日現在 計12施設



3 周産期医療体制

札幌市の産婦人科救急医療体制



母体搬送については、妊娠周期で二次・三次の振り分けを行っている。

○産婦人科三次救急医療機関

対象	参加病院数	NICU数	備考
妊娠週数23～36週に対応	6	計62床	うち2施設は準3次

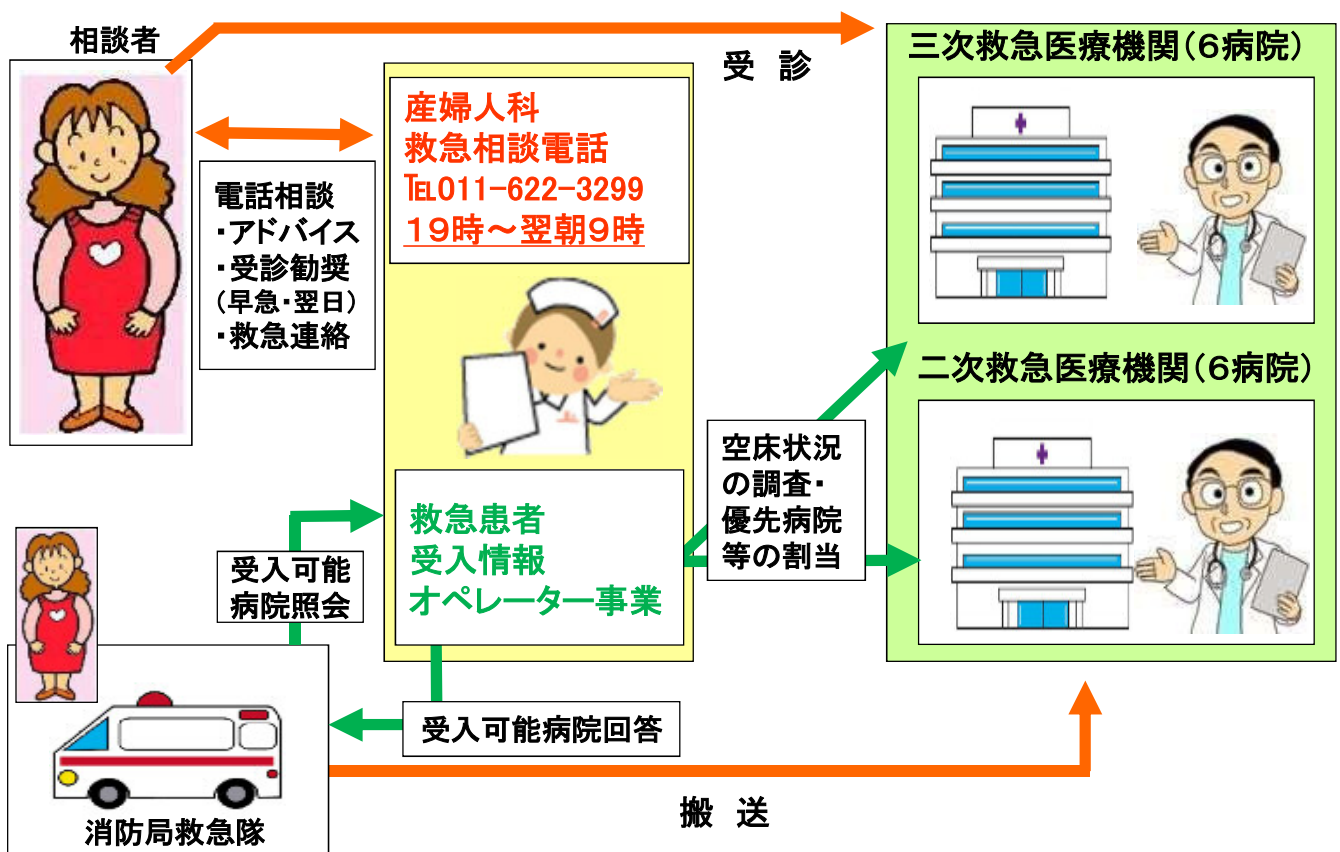
○産婦人科二次救急医療機関

対象	参加病院数
妊娠週数23未満又は36週以降に対応	6

○産婦人科初期救急医療体制（再掲）

	診療科目	1日当たり 当番施設数	診療時間
休日救急当番制度	産婦	1～2	9時～17時
土曜午後救急当番制度	産婦	1	13時～17時

産婦人科救急相談電話

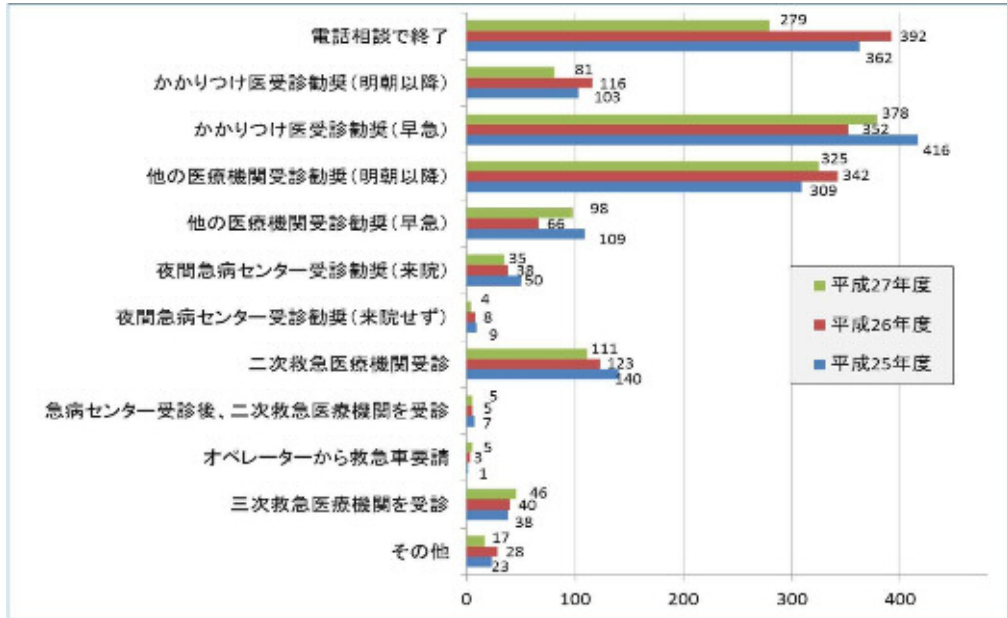


産婦人科救急相談電話、コーディネーター事業

○コーディネーター業務

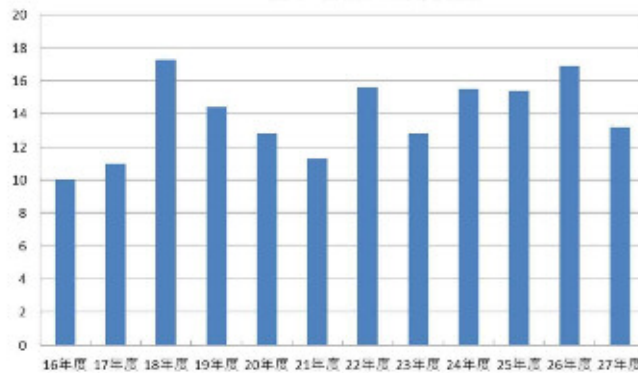
- ・市内の産婦人科・NICUの空床状況確認・優先病院等選定
- ・北海道全域の産婦人科・NICUの空床状況確認
- ・産婦人科救急相談電話[対応時間:19時～翌9時、体制:助産師2名]
- ・未受診妊婦の搬送調整
- ・医療機関、救急隊からの搬送調整
- ・搬送患者の転帰状況等の確認

○対応状況



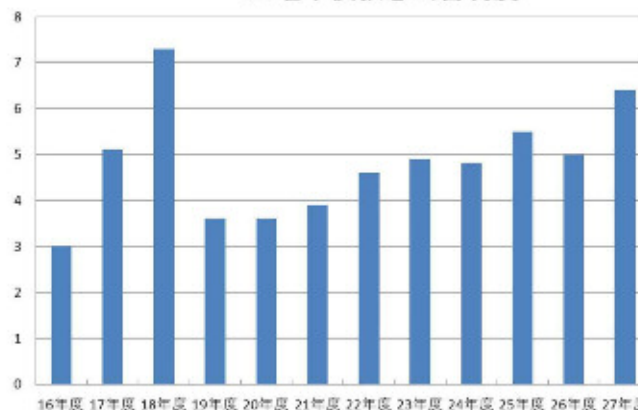
産婦人科初期救急患者数

休日救急当番制度



年によって変動あり

土曜午後救急当番制度

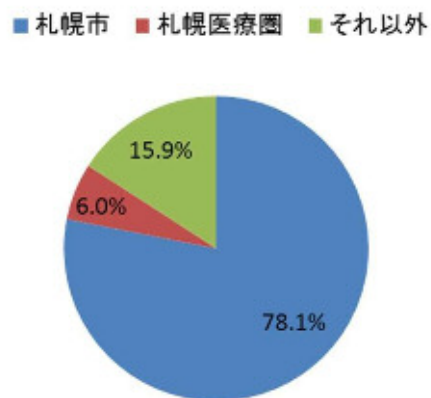


平成19年以降
増加傾向

NICU受入状況

二次救急医療機関への圏域外の自治体からの救急搬送件数

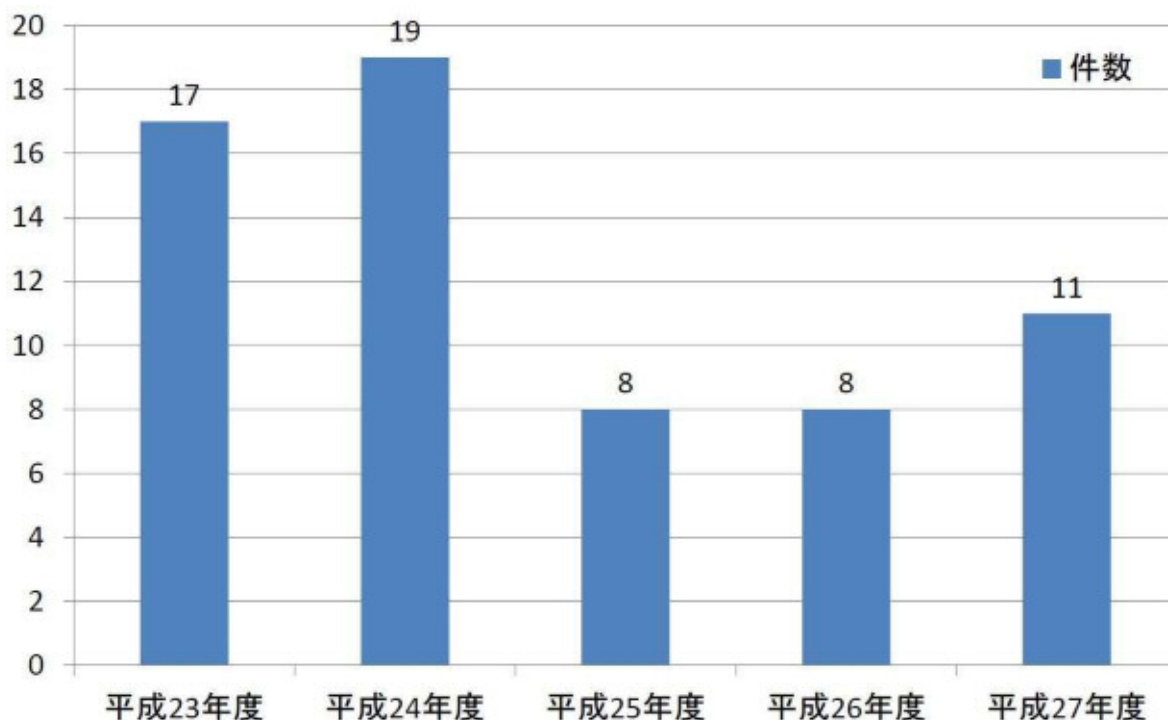
患者地域	人数(人)	割合(%)
札幌市	82	78.1
札幌医療圏 (札幌市を除く)	6	6.0
それ以外	17	15.9
合計	105	100.0



平成26年度:札幌市保健所調査

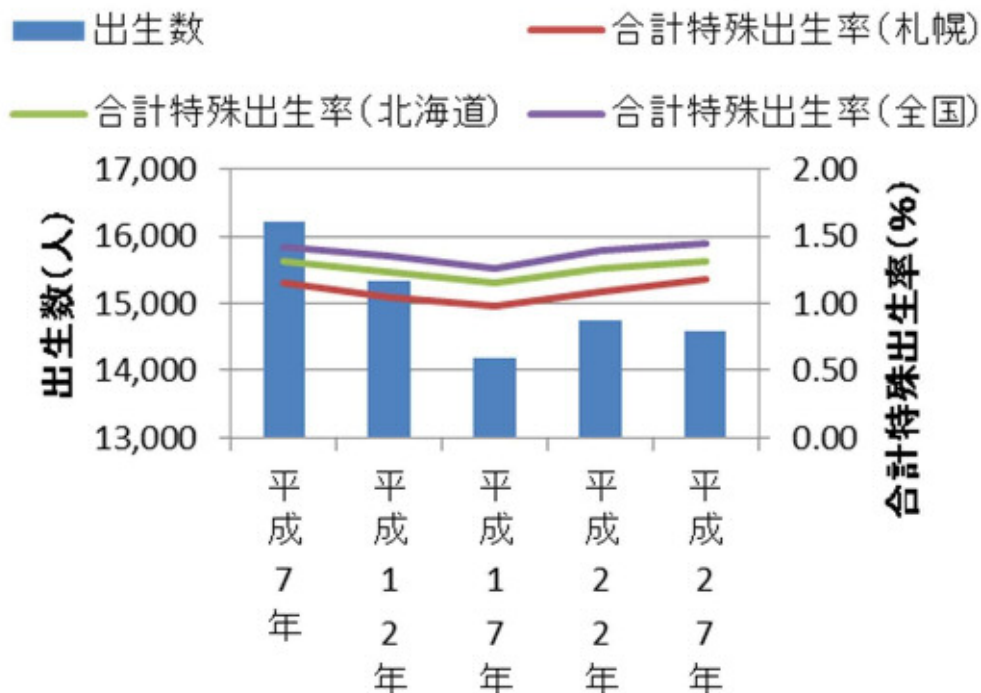
未受診妊婦受入件数

定期健診を受けず、出産間際になって医療機関へ飛び込み出産をする「未受診妊婦」



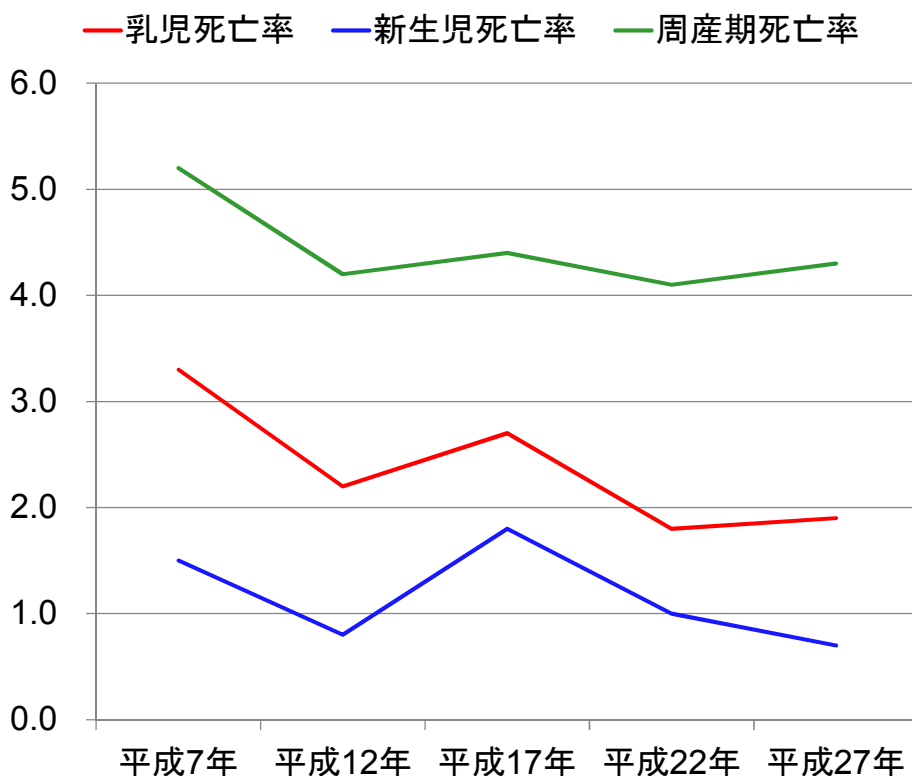
出生数

出生数減少



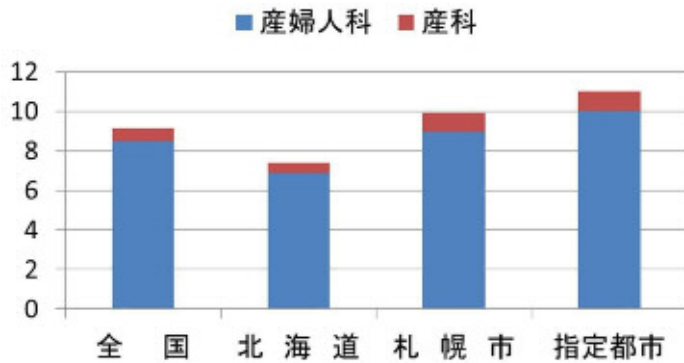
乳児・新生児・周産期死亡率

死亡率低下傾向



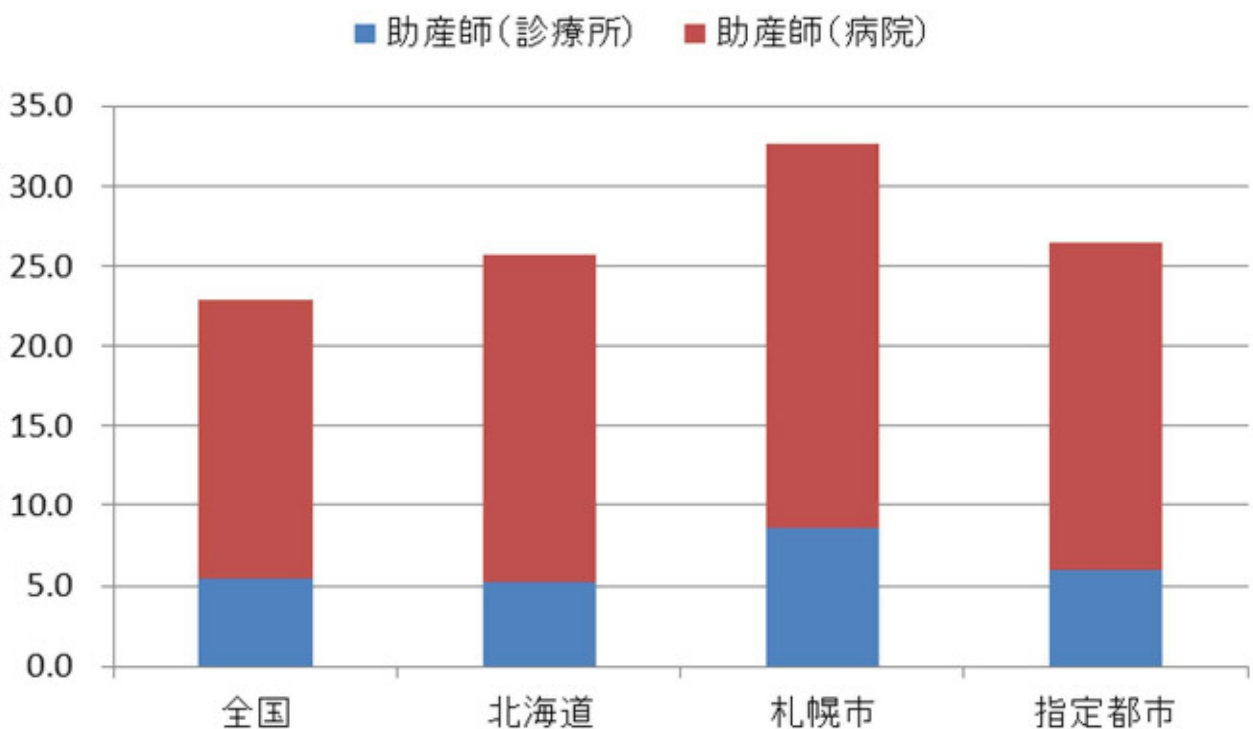
産科・産婦人科医師数(人口10万人対)

全国平均より多いが、指定都市平均より少ない



	平成16年	平成26年
全国	8.8	9.1
北海道	7.5	7.4
札幌市	9.8	9.9
指定都市	10.5	11.0

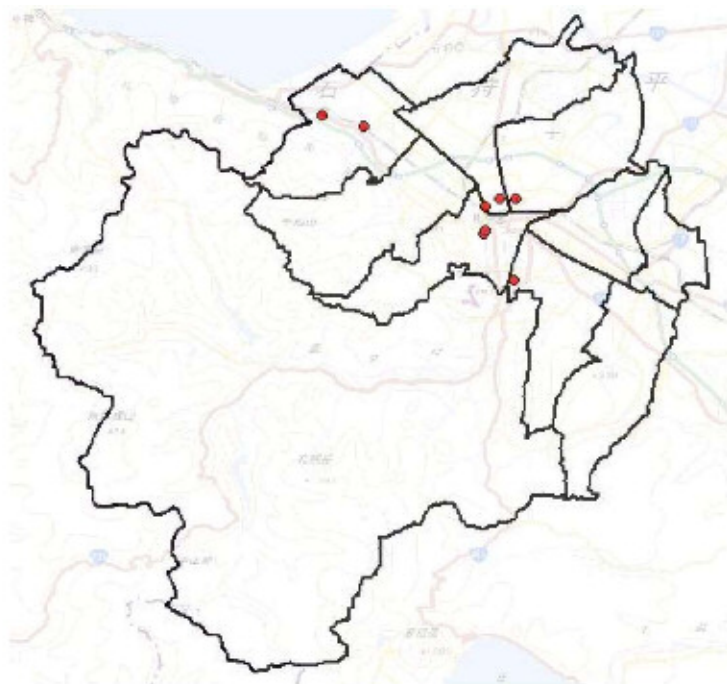
助産師数(人口10万人対)



周産期母子医療センター 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	1
北区	1	清田区	0
東区	1	南区	0
白石区	0	西区	0
厚別区	0	手稲区	2

2014年4月1日現在 計8施設

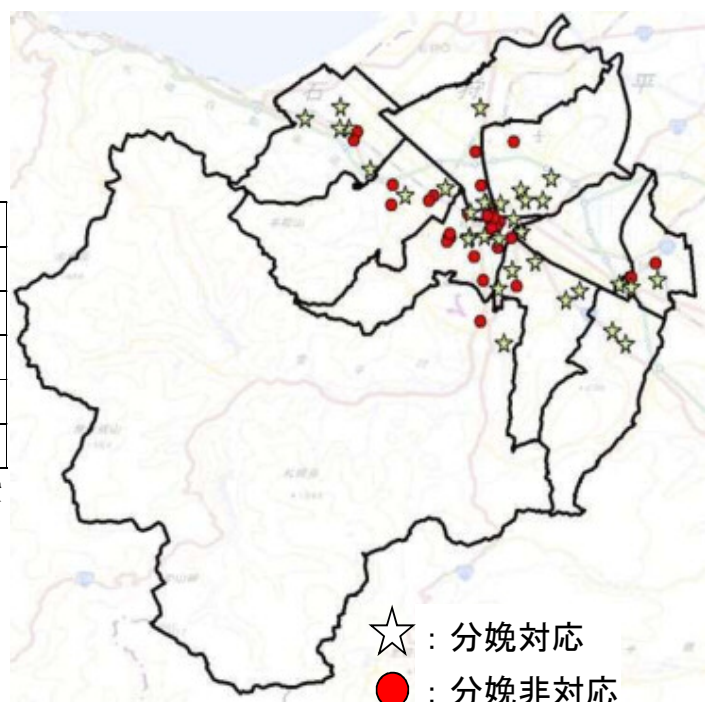


産科又は産婦人科を標榜する医療機関 地域分布

※()内は分娩対応施設数 (内数)

区	施設数	区	施設数
中央区	21(6)	豊平区	7(5)
北区	7(3)	清田区	2(2)
東区	6(5)	南区	2(1)
白石区	3(2)	西区	6(2)
厚別区	5(3)	手稲区	7(5)

2017年1月1日現在 計66(34)施設



助産師外来・院内助産所を開設する医療機関 地域分布

※()内は院内助産所併設施設数 (内数)

区	施設数	区	施設数
中央区	1	豊平区	2(1)
北区	2(1)	清田区	0
東区	1	南区	1
白石区	0	西区	0
厚別区	1	手稲区	2

2016年4月1日現在 計10施設



NICU

施設数

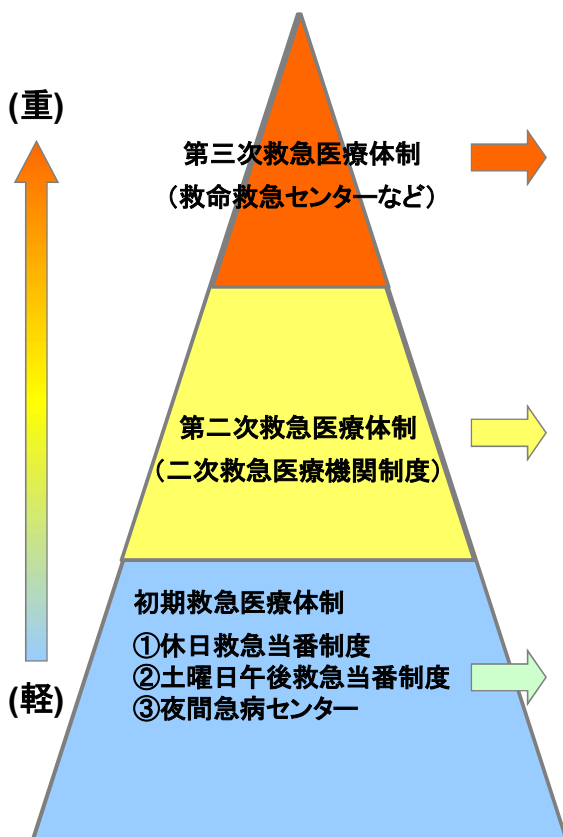


病床数



4 札幌市の小児医療体制 (小児救急医療を含む)

札幌市の小児救急医療体制(再掲)



○三次救急医療体制（救命救急センターなど：年間365日24時間対応）

札幌医科大学附属病院高度救命救急センター
市立札幌病院救命救急センター
国立病院機構北海道医療センター（併設：救命救急センター）
手稲溪仁会病院救命救急センター
北海道大学病院救急部

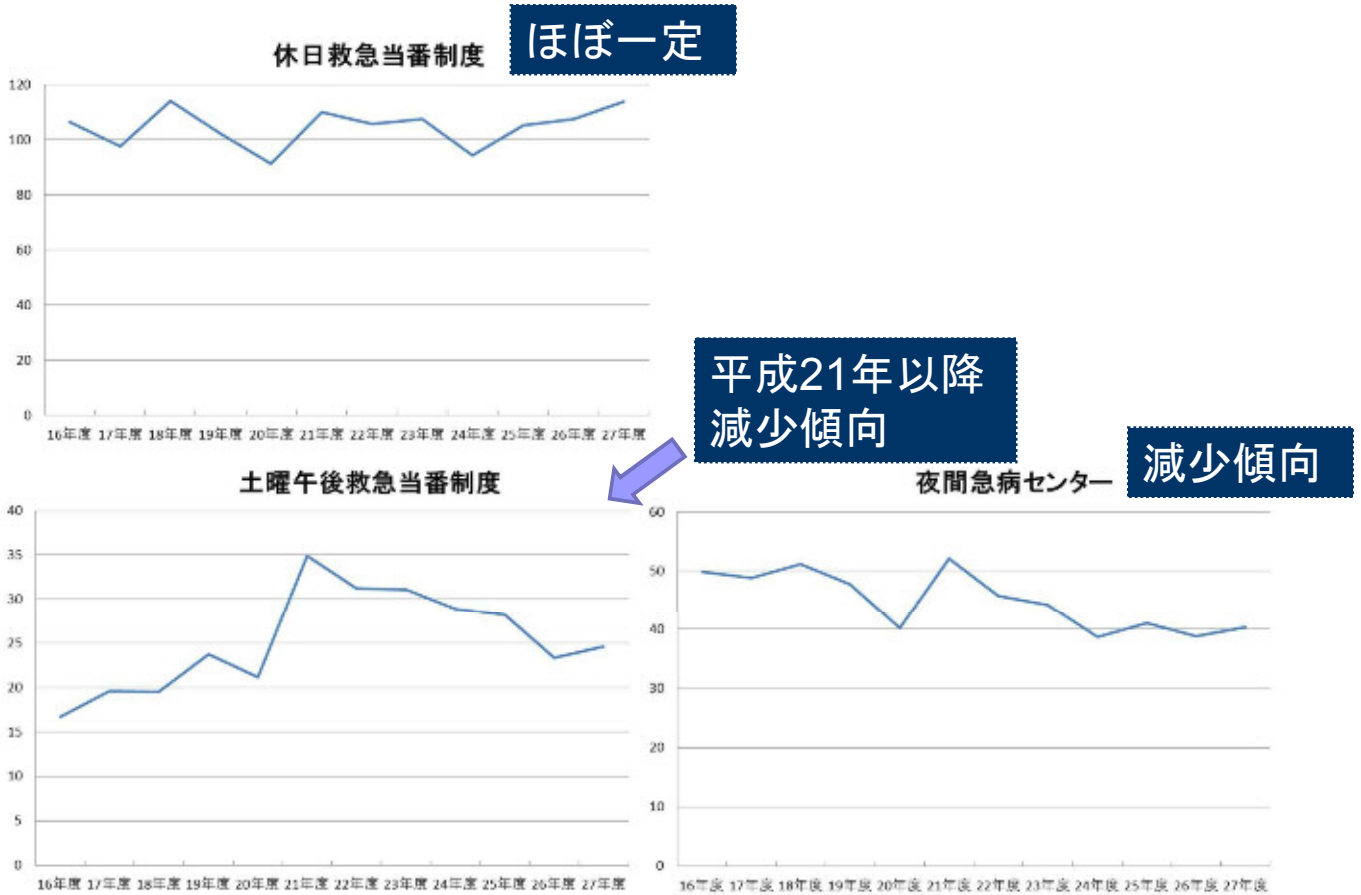
○二次救急医療体制（二次救急医療機関制度）

診療分野	参加病院数	1日当たり 当番病院数	診療時間
小児科	11	1	（平日） 17時～翌日9時 （土曜日） 13時～翌日9時 （日曜日） 9時～翌日9時

○初期救急医療体制

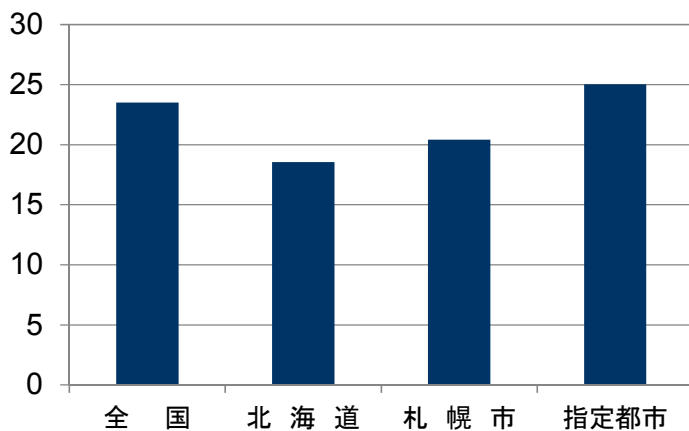
	診療科目	1日当たり 当番施設数	診療時間
休日救急当番制度	小児科	2～5	9時～17時
土曜日午後救急当番制度	小児科	1	13時～17時
夜間急病センター	小児科	1	19時～翌7時

小児救急患者数(1日・施設平均)



小児科医師数(人口10万人対)

全国平均より少ない
減少傾向

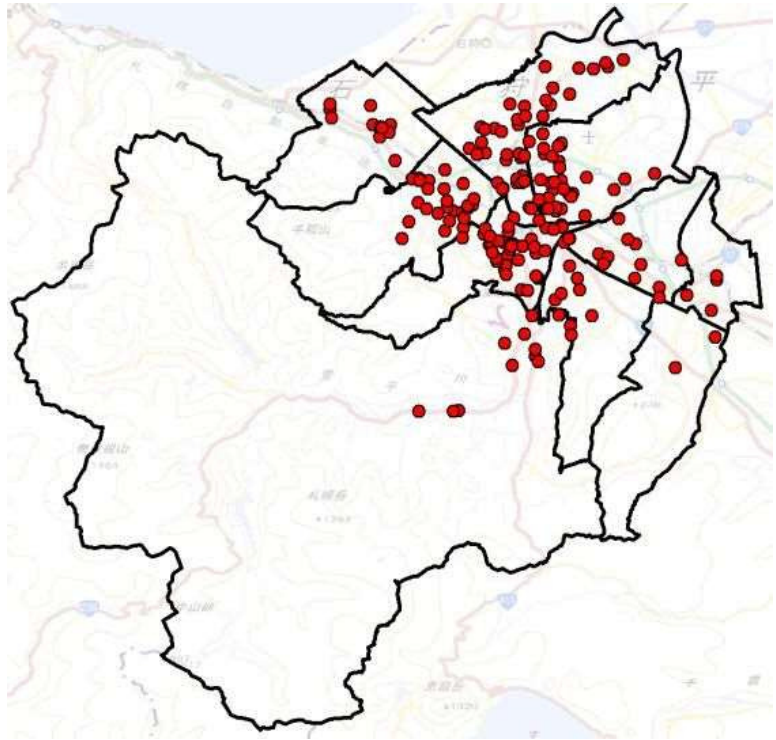


	平成16年	平成26年
全国	25.2	23.5
北海道	21.1	18.5
札幌市	21.9	20.4
指定都市	26.6	25.0

小児科を標榜する医療機関 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	41	豊平区	23
北区	41	清田区	7
東区	33	南区	14
白石区	21	西区	26
厚別区	17	手稲区	15

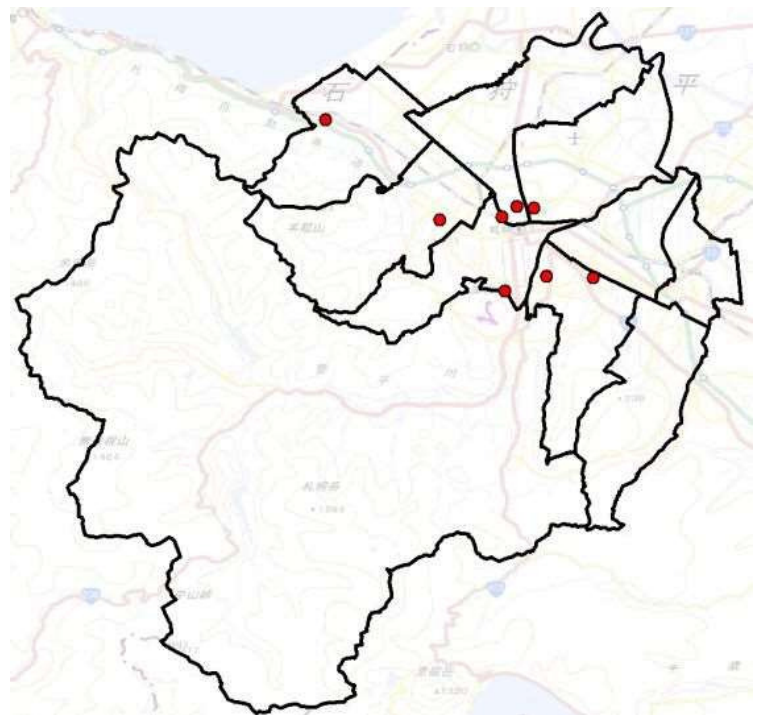
2017年1月1日現在 計 238 施設



小児外科を標榜する医療機関 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	2	豊平区	2
北区	1	清田区	0
東区	1	南区	0
白石区	0	西区	1
厚別区	0	手稲区	1

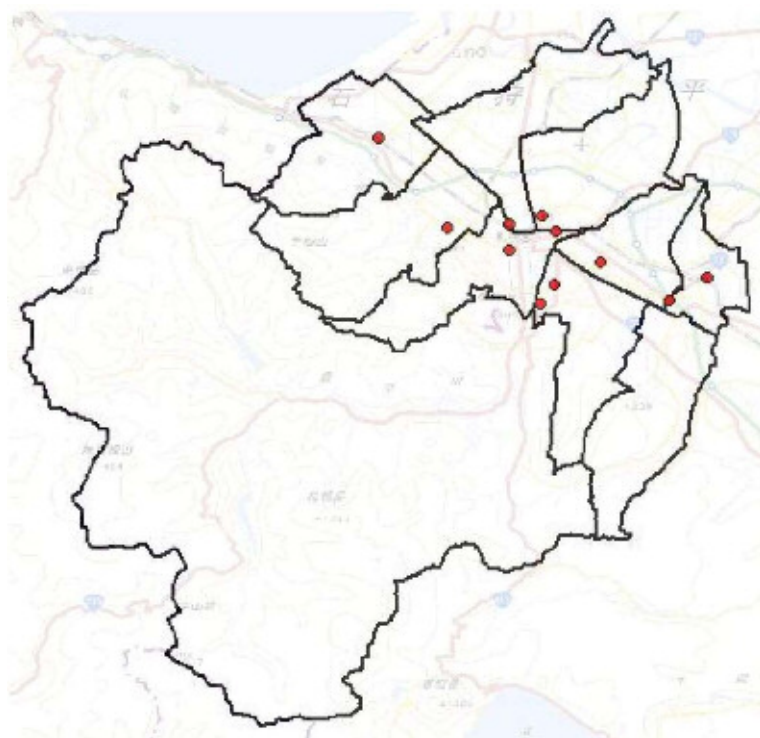
2017年1月1日現在 計 8 施設



小児救急医療支援事業参加病院(二次救急) 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	2
北区	0	清田区	0
東区	1	南区	0
白石区	1	西区	1
厚別区	2	手稲区	1

2015年4月1日現在 計11施設

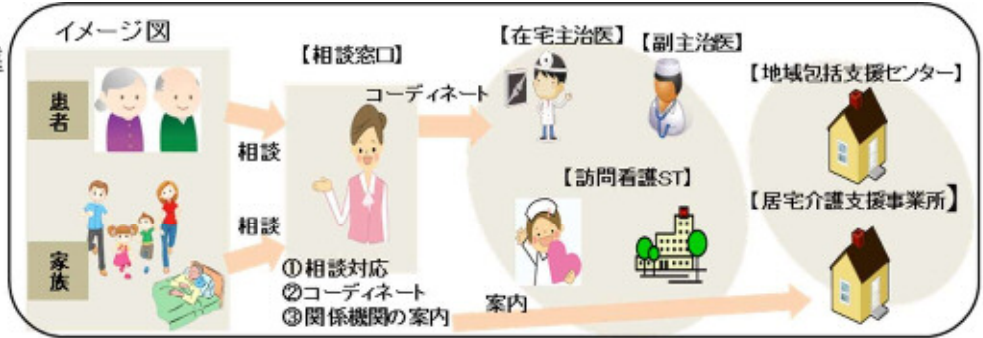


5 在宅医療体制

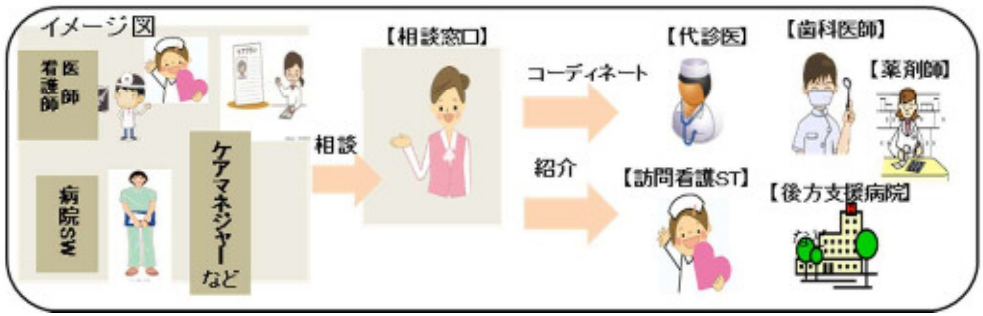
札幌市の在宅医療体制①

(1) 在宅医療コーディネート事業

○概要
患者・家族向け相談窓口
→在宅医療の疑問・不安などの相談内容に応じて、医療・介護資源の情報提供



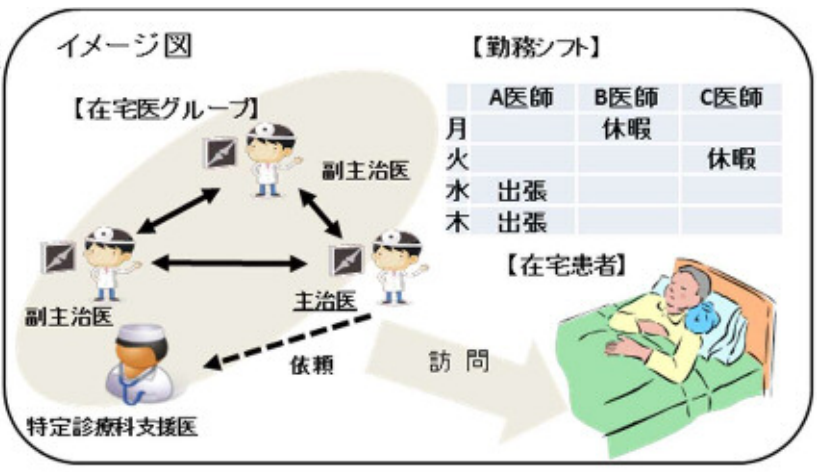
○概要
医療・介護従事者向け相談窓口
→主治医の専門分野外対応医師の紹介、主治医不在時の緊急対応相談、医療機関の情報提供



札幌市の在宅医療体制②

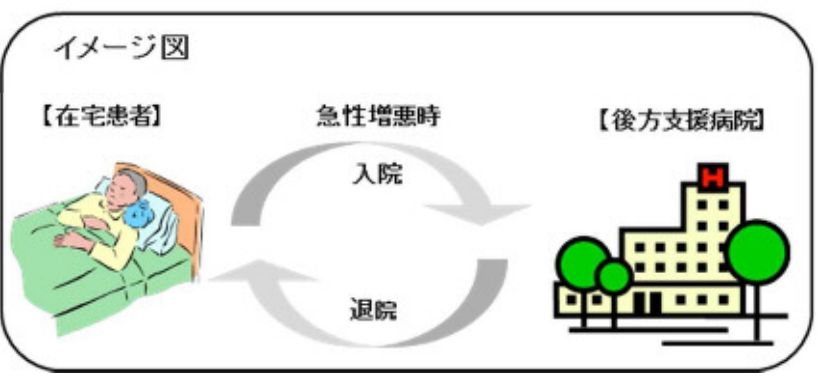
(2) 医師バックアップ体制構築支援事業

○概要
①主治医対応不可時、地域ごとに在宅医のグループを構築
②勤務シフト・カルテの情報共有
③主治医専門外の対応が必要な場合は、支援医に対応を依頼



(3) 緊急時入院病床確保事業

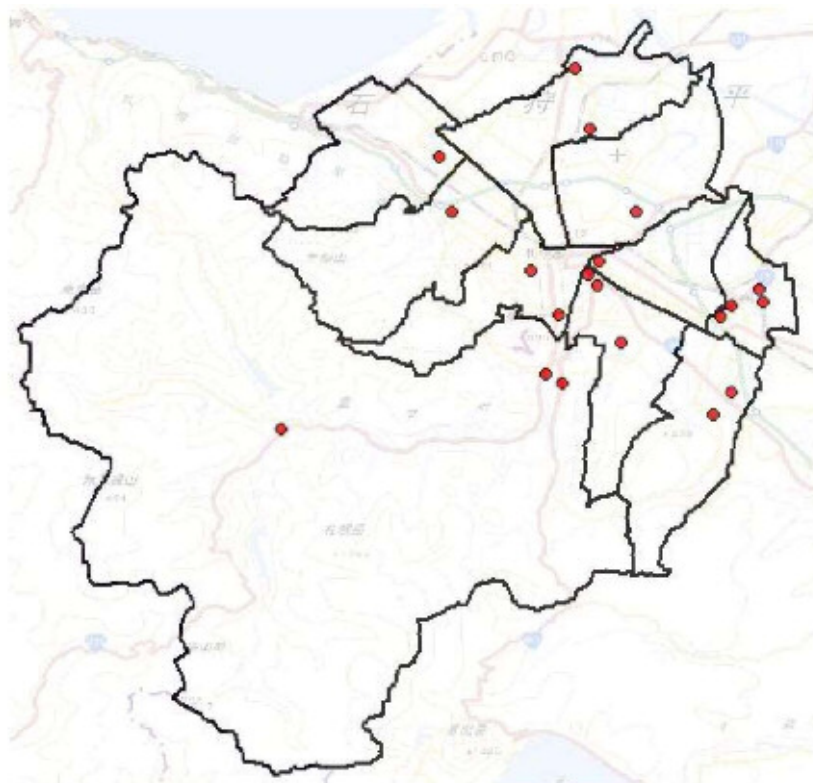
○概要
①在宅患者の急性増悪時等に、入院治療の体制(当番病院制、病院指定制等)を整備



在宅療養支援病院 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	3	豊平区	3
北区	2	清田区	2
東区	1	南区	3
白石区	1	西区	1
厚別区	4	手稲区	1

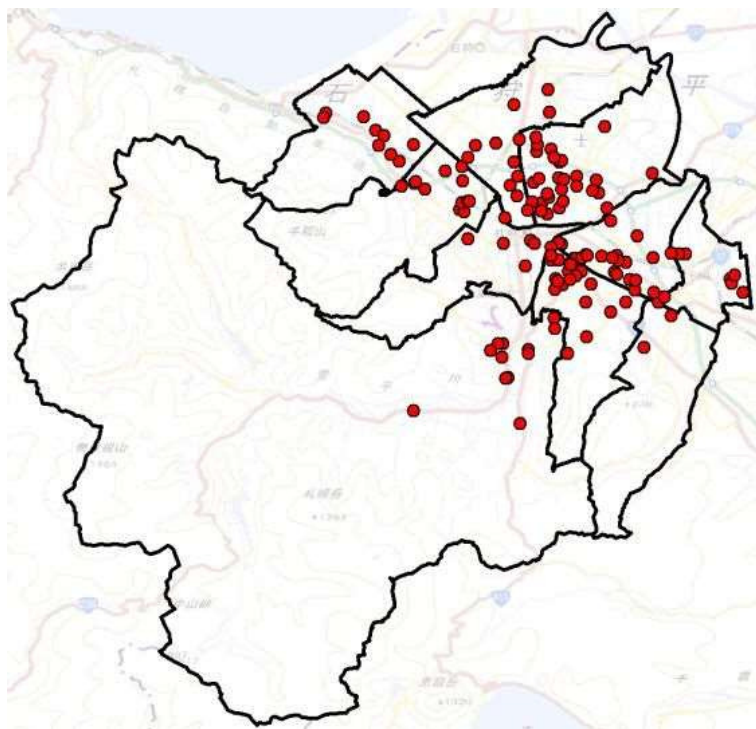
2017年1月4日現在 計 21 施設



在宅療養支援診療所 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	22	豊平区	20
北区	14	清田区	2
東区	29	南区	12
白石区	24	西区	12
厚別区	6	手稲区	10

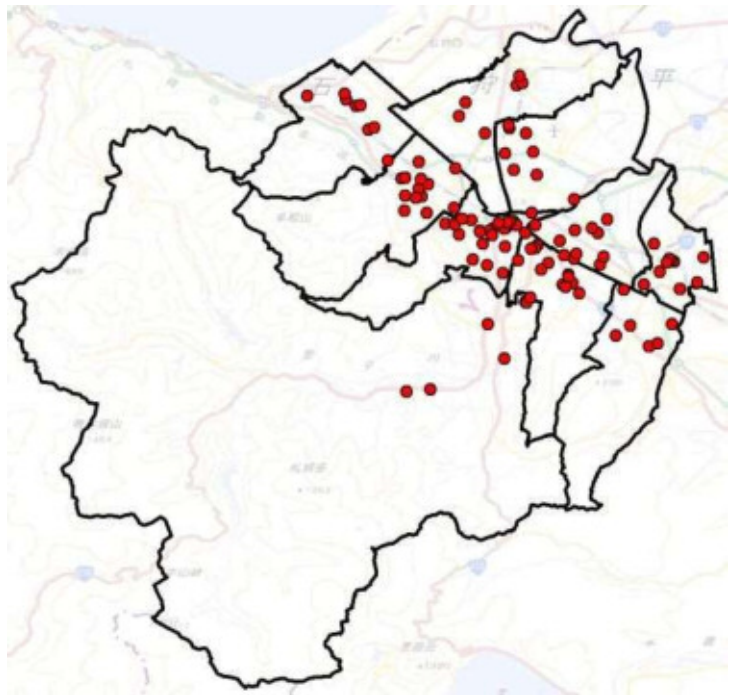
2017年1月4日現在 計 151 施設



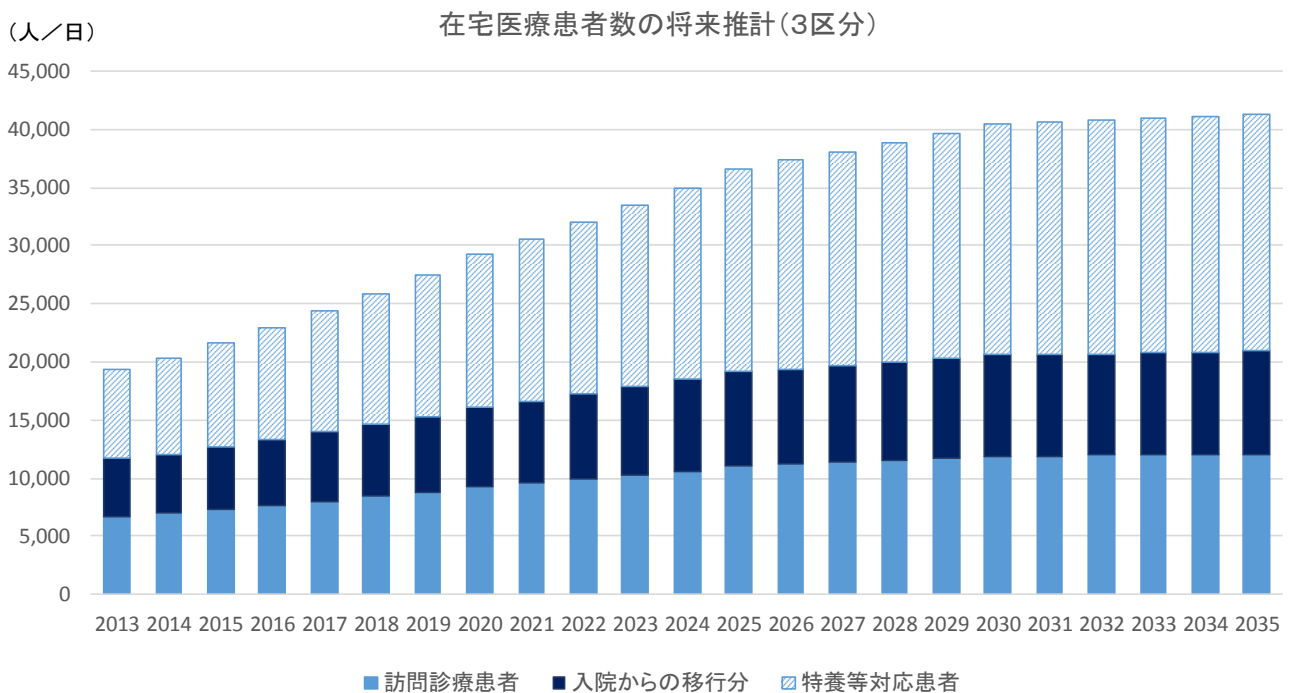
在宅療養支援歯科診療所 地域分布

区	施設数	区	施設数
中央区	26	豊平区	13
北区	20	清田区	6
東区	13	南区	7
白石区	11	西区	13
厚別区	10	手稲区	8

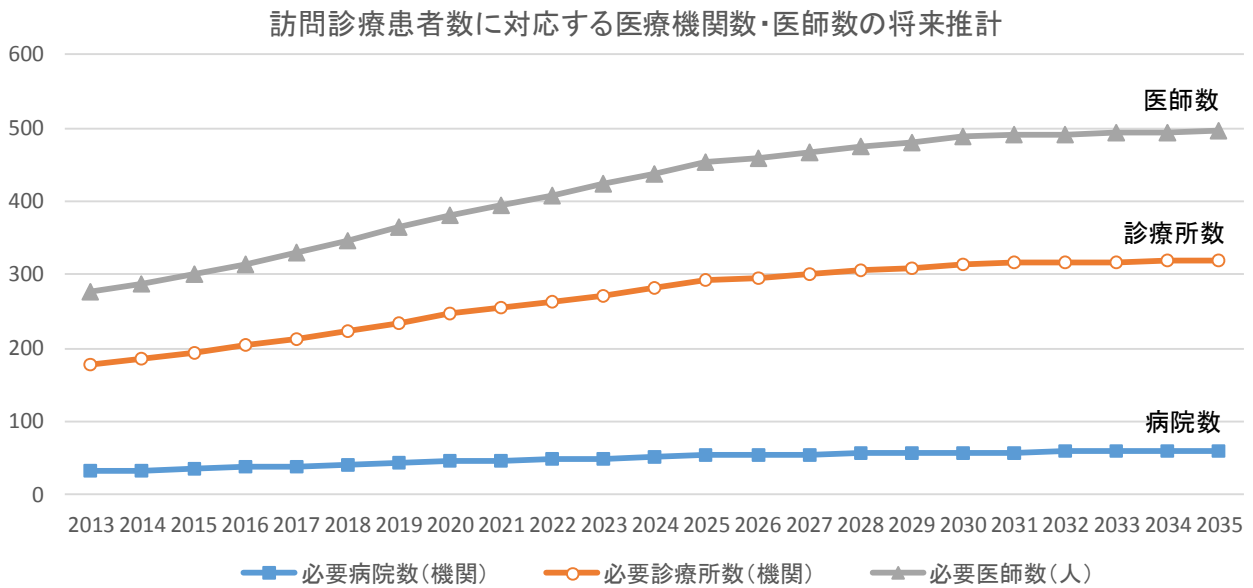
2017年1月4日現在 計127施設



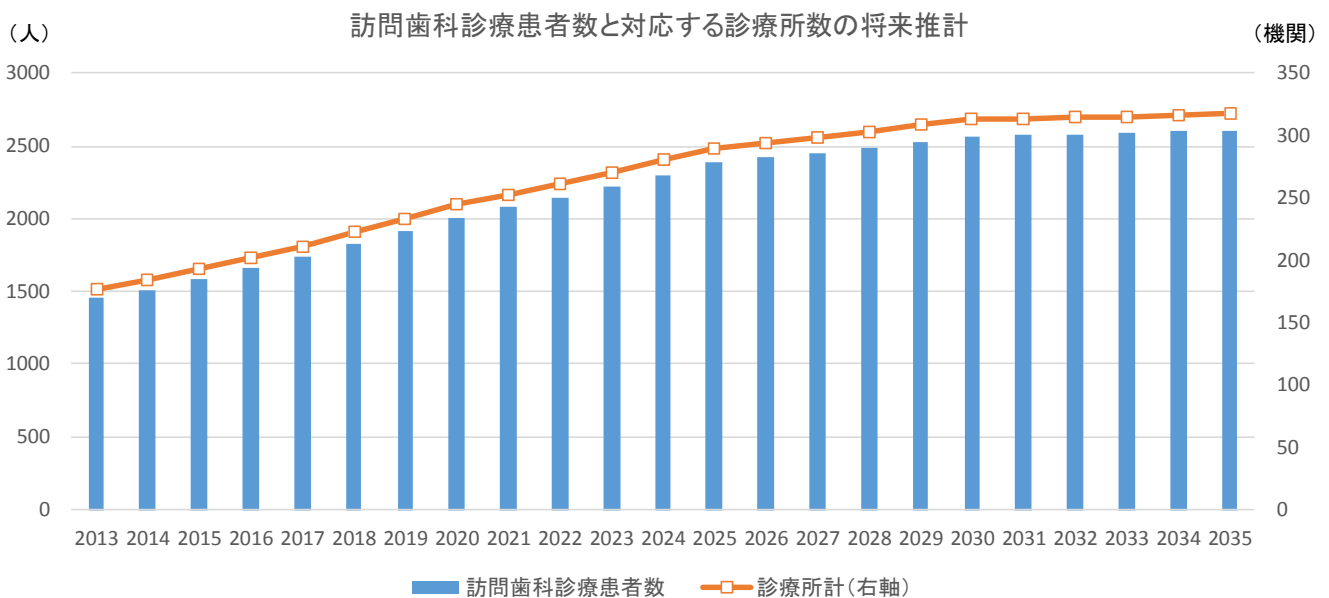
在宅医療患者数の将来推計



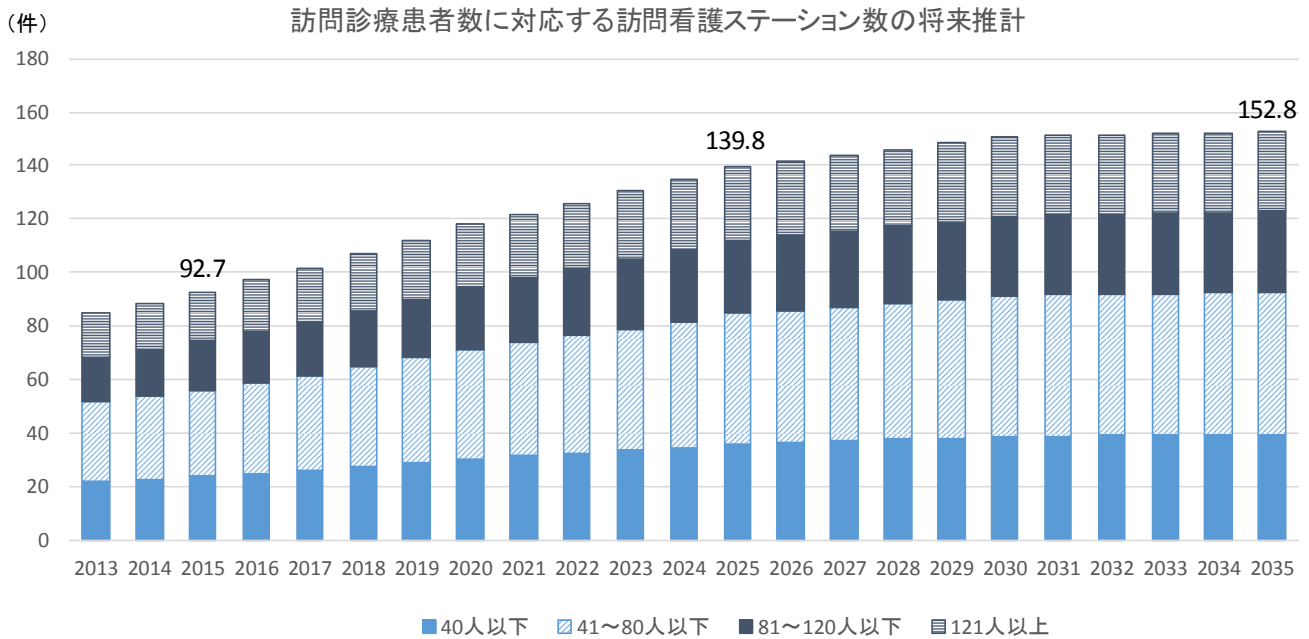
訪問診療患者に対応する必要医療機関数・必要医師数の将来推計



訪問歯科診療患者に対応する必要歯科診療所数の将来推計

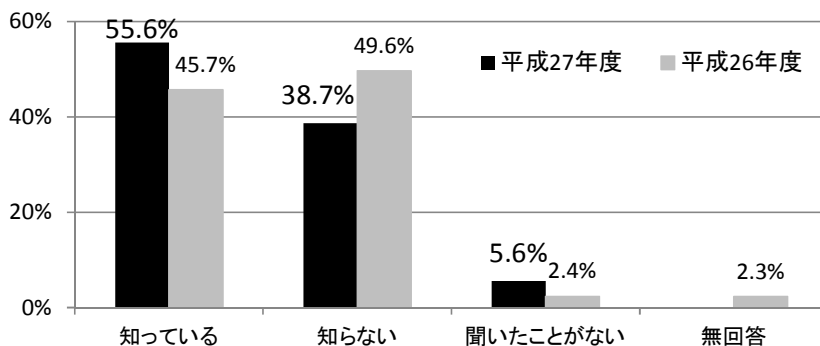


訪問診療患者に対応する 訪問看護ステーション数の将来推計

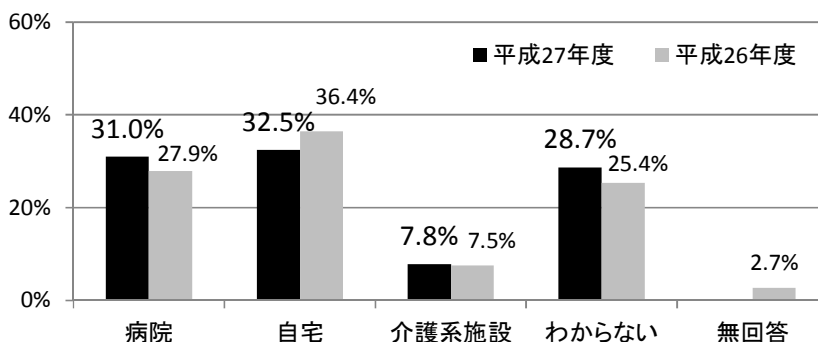


市民意識

○ 認知度

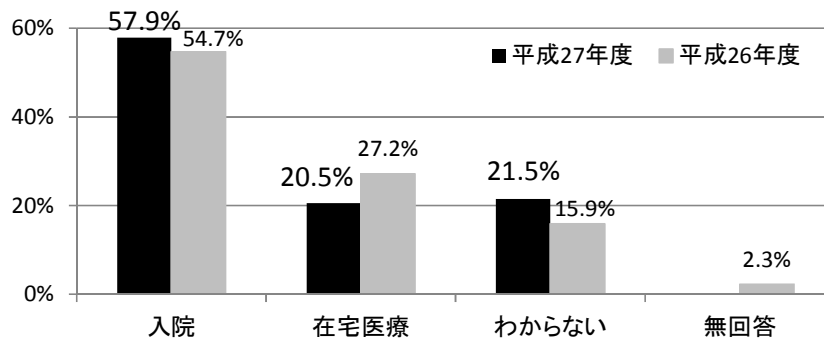


○ 最期を迎えたい場所

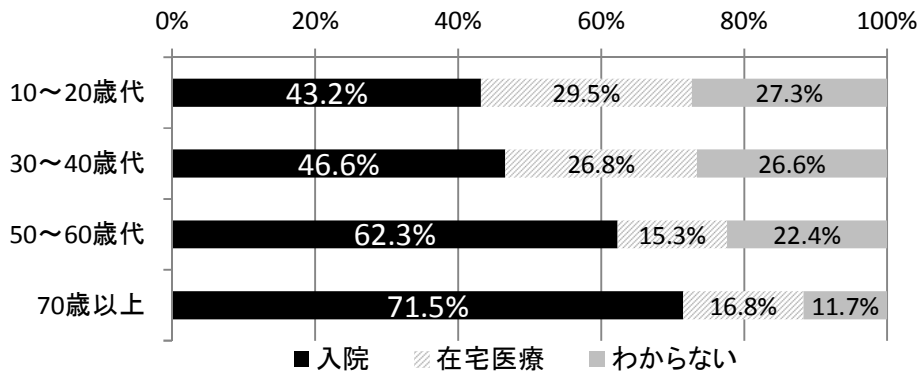


市民意識

○ 療養方法の選択



○ 年代別の療養方法の選択(平成27年度)



市民意識

市民への普及啓発の必要性

⇒ 在宅医療を認知しており、最期を自宅で迎えたいと希望しても、在宅医療よりも入院を選択する傾向

○ 札幌市の普及啓発に係るこれまでの取組

【講演会】

市民を対象とした在宅医療の講演会を平成27年度2回開催

【ガイドブックの配布】

市民が自らの意思で療養方法を選択する際に手引きとするためのガイドブックを配布(約6,000部)
(配布先:各區役所、まちづくりセンター、地域包括支援センター、市内在宅療養支援医療機関など)